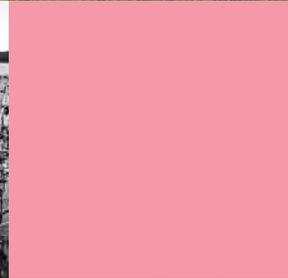


# Wetlands Greenwave

水のつながり  
命のつながり

## 湿地のグリーンウェイブ2025



## 世界湿地の日2025と 第15回ラムサール条約締約国会議

2月2日は国連の定めた「世界湿地の日」です。1971年に採択されたラムサール条約の誕生記念日で、この日に合わせて、毎年各国で、湿地保全・再生のためのキャンペーンが行われています。ラムサール条約事務局では、年ごとのテーマに沿ったポスターやパンフレットを提供しています。ラムネットJの湿地のグリーンウェイブは湿地が生きもので賑わう春～夏にかけてのキャンペーンで、実施期間は合致しないのですが、条約が作成したいろいろなツールを



各地域でも活用できます。環境省が日本語版ポスターを作成し、配付しています。なお、世界湿地の日2025とCOP15(2025年7月、ジンバブエビクトリアフォールズで開催)のテーマは共通で、「湿地を守ろう わたしたちの未来のために」となっています。

## 第15回ラムサール条約締約国会議(COP15)

ラムサール条約は、3年ごとに締約国会議を開催します。締約国会議には172の締約国の政府のほか、未締約国の政府、国際機関、NGOの代表が出席し、条約の改正、予算の承認などが審議されます。世界の湿地の状況や保全活動に関する報告も重要なテーマになっています。

第15回締約国会議は2025年7月23-31日、ジンバブエのビクトリアフォールズで開催されます。ラムサール・ネットワーク日本も参加し、展示や政府との協働でサイドイベントを行う予定です。

世界湿地の日2025とCOP15の共通テーマ「湿地を守ろう 私たちの未来のために」は、私たちにとって大切なこととして以下のようなことがあげられています。

- 人々が生物多様性を育む豊かな湿地の生態系を理解できるような活動を組み立てる
- 1人1人が行動を起こすような働きかけを工夫する
- 私たちの未来に向けていっしょに活動していく



## 湿地と気候変動 湿地：気候変動に対応する鍵

- 湿地、それは気候変動対策の鍵となる大切な陸上生態系。湿地は大気中の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を吸収し、土壌とバイオマスに蓄えることで、**気候変動の影響を軽減**します。
- マングローブなどの沿岸湿地は、熱帯雨林より早いスピード(55倍!)で**炭素を隔離**します。
- 地球の陸地面積の3%を占める泥炭地が、**土壌炭素の30%を貯蔵**しています。
- 気温上昇による干ばつなど、気候変動は湿地に大きな影響を与えています。気候変動の影響を緩和し、**豊かな生態系サービスを提供**してくれる湿地。湿地が劣化すれば、気候変動の影響はさらに悪化します。
- 湿地が乾燥してしまうと、湿地は「炭素吸収源」から「炭素排出源」に変わってしまいます。湿地を**保全・再生し、「賢く」利用(ワイズユース)**することにより、CO<sub>2</sub>の排出を防ぎ、隔離することができるのです。
- 様々な社会課題に対応するための**自然を活用した解決策(Nature-based Solutions:Nbs)**として、「湿地の保全と再生」を政府等の気候変動対策などに積極的に組み込むことが大切です。
- パリ協定の「1.5°C目標」(世界全体の平均気温の上昇を産業革命以前と比べて、少なくとも2°C未満に抑える)を達成するために、**2030年までに失われた泥炭地の50%を回復する必要があります**。



1971年2月2日に「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約(ラムサール条約)」が採択されたことを記念し、毎年の開催日は、1996年に「世界湿地の日」を定め、これを「湿地の日」とし、2002年に「世界湿地の日」を定め、2021年8月、国連総会は、この日を国連の定める「世界湿地の日」と決しました。

日本国政府は、環境省自然環境部環境政策課

#ActForWetlands - [www.worldwetlandsday.org](http://www.worldwetlandsday.org)



湿地を守ろう わたしたちの未来のために 2025年「世界湿地の日」資料日本語版 環境省HP より

まず湿地そのものの存在が炭素を隔離し、気候変動を緩和する重要な働きがあることを評価し、湿地の保全/回復を行うことが重要です。気候変動対策の事業を行う際には自然を活用した解決策(Nature-based Solution)を採用すれば、湿地保全と気候変動緩和の相乗効果を得ることが可能とされ

ています。気候変動対策事業によって生物多様性が損なわれることのないように、生物多様性保全と気候変動問題の同時解決につながる方策についての研究/施策に着目し、それらの方策/施策を採用するように各方面に働きかけましょう。

## 湿地のグリーンウェイブ 活動報告

### とくしま自然観察の会

シオマネキの生息地を守ろう!!  
吉野川舟着場干潟のクリーンアップ  
■2024年7月7日(日) 10:00~12:00

本会との共催で、ジェイテクト徳島工場の社員を含む約100人が参加し、干潟の環境保全のための清掃活動を行いました。流木やヨシ片を約3トン集め、ペットボトルやプラスチックごみを45リットルのごみ袋30袋分撤去しました。この活動により、舟着場干潟のシオマネキの生息環境が一步復元されました。吉野川はシオマネキの重要な生息地であり、汽水域に広く分布しています。そのなかで、舟着場干潟は、面積こそ小さいけれどシオマネキをはじめ様々な希少種の宝庫でしたが、最近10年間大量の漂着ゴミが生息環境を脅かしており、シオマネキの数は減少しています。シオマネキは環境省により絶滅危惧Ⅱ類に選定されており、健全な河口域の指標とされています。私たちは、シオマネキの生息状況が吉野川の生態系全体の健康を示すバロメーターであると考え、その価値を広く伝え、これからも保全活動への参加を呼びかけていきます。



吉野川住吉干潟のシオマネキ観察会  
■2024年7月27日(土) 13:30~15:30

“川と親しみ、川の魅力を知り、川と遊ぶための3日間”『吉野川フェスティバル』の一環として開催した、干潟観察会は、70人の家族連れで賑わいました。吉野川河口干潟では、シオマネキ、ハクセンシオマネキ、クシテガニなど各地の干潟で姿を消しつつある希少生物があたりまえに観察できます。泥干潟の観察では、ザルとスコップを使って泥の中の生物を

捕まえ、阿波魚類研究会の専門家からハゼ類の名前や生態について解説をうけました。(トビハゼ、アベハゼ、チクゼンハゼ、ヒモハゼ、ヒメハゼ、マハゼをゲットしました)住吉干潟では、いろんな種類の生物がちょっとした環境の違いを利用して棲み分けているのがとてもおもしろいところです。真夏の日差しの中、川風を感じながら子どもたちは泥だらけになりながら楽しみ、五感を研ぎ澄ます貴重な体験を通じて、健全な生態系の重要性を学ぶ機会となりました。



### NPO法人中池見ねっと

中池見湿地 春の自然観察会  
■2024年4月13日(日) 10:00~12:00



中池見の春の自然観察会はお天気にも恵まれ、小さなお子さんからシニア世代まで様々な年齢層の皆さんにご参加いただきました。

出発してすぐ、足元に咲くトキワハゼやヘビイチゴ、オオバタネツケバナなどの小さなお花たちにつかまって、目の前の田んぼまでが遠い遠い(笑) 見落としてしまいがちな野の花や生き物たちとの出会いは、大きな草に覆われていないこの時期ならではの。グツと解像度の上がったところで、田んぼや水路を覗きながら歩きました。

田植え前の田んぼの中には県内で中池見でしか見られないデンジソウや、トノサマガエルの卵、アカガエルのオタマジャクシやオオタニシなど、湿地を囲む林縁部ではトキワイカリソウやセンボンヤリ

の可憐な花にシマヘビの日向ぼっこにまで遭遇。池にはシカの食害を逃れたミツガシワの花、小川にはカタノメダカやヒキガエルの紐状の卵も見つけ、おっかなびっくり触る子どもたち。最後の最後にやはり日向ぼっこしていたニホンイシガメ、逃げようとして枯草にひっかかりワタワタしているところをスタッフに捕まり(笑)みんなで観察させてもらいました。

参加者の皆さんからは、「中池見の春を満喫しました」「新たに会った動植物のことを知れた」など、中池見湿地の自然を存分に感じていただけた様子。新緑広がる景色のどこを見ても春の気持ちよさに溢れて、心ゆくまで湿地の春を堪能しました。



ミツガシワ



デンジソウ

## ウエットランドフォーラム

楽しんで守ろう。SDGsで潮干狩り

■2024年4月21日(日) 15:30~18:00

■参加者:76名 ■取材:FBSテレビ、西日本新聞社

・6つのポイントで6チームで潮干狩りを行い、採取したアサリは全て大きさを計測



受付担当はガタレンジャー。配布物が多かったのですが、自由に押せるオリジナルのカニスタンプが人気でした。まず趣旨とプログラムの紹介と、6つのチーム分けと調査の方法について説明。チームごとに色分けされた手作りのアサリカードが好評でした。続いて、和白干潟のアサリの成長調査や現象について城東高校科学部の生徒たちが、クイズも交え

て、子どもたちにも楽しくわかりやすく解説してくれました。

4時、いよいよ潮干狩りの始まりです。6つのポイントに10名前後の6チームが期待を込めて、海の広場から張り切って干潟へ出発しました。実際はどのチームも苦戦したようで、「見つからん」、「小さいのしか採れん。前はもっと採れたのに・・・」、「ここ2~3年採れなくなった。アサリの味噌汁も作れない」、などの感想が聞こえてきました。子どもたちから「楽しかったけど、びっくりするくらい採れなかった」や、「もっとザクザク採れていたの、そんな環境にもどしたい」などの声も上がりました。

生きもの探しでは、タイワンガザミやスナモグリ、クルマエビ、ハゼ、アシハラガニ、マメコブシガニなどを捕獲しました。中には、セズジムラサキエビやヒラムシなどマニアックな生きものも見つけてくれました。

イベントの最後のふりかえりでは、ガタレンジャーから「家に持ち帰る量が採れなかったけど、その原因を考えながら今後の活動をしていきたい」。高校生からは「アサリが少ないです。お店で並んでいるアサリも感謝しながら食べてほしいです。今後も干潟の保全活動をしていきたいと思います」。大人世代からは「張り切ったけど3cm以下のアサリばかりでした。でも潮干狩りはみなさんと一緒に楽しめました。今後も干潟の活動を続けていきたいと思います。」などの感想がありました。

今回の潮干狩りイベントは楽しい中にも、和白干潟のアサリの厳しい状況を参加者を通じて地域、福岡市民に知ってほしいという思いで企画しました。その意味ではFBSテレビのニュース番組でもしっかり厳しい状況を放映し、私たちの今後の思いも伝えてくれたので、ある程度目的を達成できたのではないかと感じました。

もちろん、今後の私たちの活動が何より重要です。



湿地のグリーンウェイブ(WGW)では、ほぼ毎月、オンラインで「お茶会」を開催しています。この「お茶会」は、ラムサール条約や湿地の保全・賢明な利用に関心のある方や各地で活動している方たちの交流の場です。毎回、話題提供者から各地の湿地の現況や課題、取り組みなどをご紹介いただき、オンライン参加者と自由に意見交換しています。2024年度の「お茶会」から、いくつかをご紹介します。

## 三番瀬の人工干潟問題

千葉県は1993年に東京湾の三番瀬760haの埋め立て計画を発表しましたが、市民運動などで中止されました。しかし、市川市は塩浜2丁目護岸前面の浅海域に、工費3.5～7.5億円をかけて5,000㎡の人工干潟をつくる計画を進めようとしています。この問題について田久保晴孝さん(三番瀬を守る会・フィールドミュージアム三番瀬の会)から詳細が報告され、今後の対策について意見交換が行われました。

## 与那国島の日本特産種・アカヒゲと樽舞湿原の鳥類

与那国島ではこれまで419種類の鳥類が記録され、国内の島嶼の中でも群を抜いて記録の多い島です。島内の樽舞湿原は琉球列島最大級湿原で、多数の貴重動植物の生息地が確認されていますが、地形的にも調査が難しい場所です。樽舞湿原で長年、鳥類の調査研究に取り組んでいる松尾亮さん(与那国島の自然と共に生きる会)から、与那国の生きもののお話や調査方法などについてお話を伺いました。そして、いま与那国で進められている港湾開発に伴う問題点も共有しました。

## カブトガニの棲む海を未来に! 曾根干潟

北九州市の周防灘に面した曾根干潟は約517haの干潟です。江戸時代から干拓が行われ、現在も周辺では埋め立てが行われています。護岸に囲まれた干潟ですが、多様で豊かな自然環境の恩恵を受けて、生きた化石カブトガニや、希少種のズグロカモメ、クロツラヘラサギ等

の渡り鳥が多数飛来し、日本の重要湿地にも選定されています。しかし法的保護はなく、鳥獣保護区にも指定されていません。

高橋俊吾さん(日本カブトガニを守る会福岡支部長・東朽網校区まちづくり協議会委員など)から、曾根干潟の生きもののお話や現地での保全活動、地元の団体が抱える課題について参加者と共有しました。

## 『ゆめしま』は2021年まで野鳥の楽園でしたが・・・

もうすぐ開幕する大阪関西万博。その開催地「夢洲(ゆめしま)」は大阪湾奥にある埋立地です。ゴミ焼却灰と浚渫土の搬入によって出現した湿地や池には、多くの渡り性水鳥たちがやってきていました。しかし万博が終われば埋め立てて娯楽施設になってしまいます。「大阪湾岸に生物多様性豊かな湿地や干潟を取り戻すための共同宣言」が出されましたが、課題は山積みです。加賀まゆみさん(公益社団法人 大阪自然前環境保全協会 夢洲生きもの調査グループ)から、夢洲の生きものと現地での取り組み、今後の課題についてご紹介いただきました。

## 湿地のグリーンウェイブ2025 キックオフミーティング



2025年4月の「お茶会」は、湿地のグリーンウェイブ2025のキックオフミーティングを開催します。WGW2025登録団体から、各地での取り組みについての報告をします。ぜひご参加ください。

- 日時: 2025年4月23日(水) 20:00～21:30
- 参加無料・事前登録不要
- Zoom情報

<https://us02web.zoom.us/j/83134204700?pwd=WPHLtwHPuViGUCbz4N5d6fySDZdsb2.1>

- ▶ミーティングID: 831 3420 4700
- ▶パスコード: 397771



## 「湿地のグリーンウェイブ」とは

「国際生物多様性の日」の5月22日を中心に、生物多様性を向上させる活動が世界各地で開催されました。この取り組みを湿地で広げるために、ラムサール・ネットワーク日本は、2011年から「湿地のグリーンウェイブ」として独自にキャンペーンを展開しています。

- キャンペーンの期間/5月22日(国際生物多様性の日)を中心とした4月～7月

湿地のグリーンウェイブは多くの自然保護団体の協力で支えられています(順不同)

(公財)世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)

IUCN 国際自然保護連合日本委員会

(公財)日本野鳥の会

(公財)日本自然保護協会(NACS-J)

Wetlands 特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合



びっくりドンキーの  
生きもの育む田んぼの体験！

## 株式会社アレフ・えこりん村

ハンバーグレストランびっくりドンキーを全国展開する株式会社アレフでは、自社の生物調整に配慮したお米作りの普及啓発のため、東北各地の契約水田および自社水田(北海道恵庭市えこりん村内)で、田んぼの生きもの調査などの体験を提供しています。

とくに自社水田は、周囲に池、林、川がある自然に恵まれた環境のなか、30種類以上のトンボやささまざまな水辺の生きものが観察でき、田植えや稲刈り、脱穀などのお米づくり、生きもの観察会や外来種カエル等の駆除、わら細工等、お米作りと生物多様性、稲作文化を感じられる体験を開催しています。

<http://www.ecorinville.com/>

TEL 0123-34-7800(えこりん村サポートセンター受付時間 9:30~17:00)



北海道内の無名湿原を自ら歩き、  
その存在を発信する

## 北海道湿地踏査団

当団は、特定の湿地や既知の湿地の保全活動に縛られることなく、北海道の湿地、とりわけ無名湿地や未調査の湿地を踏査し、その実態を明らかにし、存在を発信していきます。今年度は、昨年度に引き続いて絶滅危惧植物ハナタネツケバナの現存状況を確認すべく、5月中旬~6月中旬の北海道東部の湿原を歩きます。

<https://www.facebook.com/HokkaidoWetlandExplorers/>

E-mail/[ezg01473@nifty.com](mailto:ezg01473@nifty.com)

TEL 090-5898-0475



ウトナイ湖の環境を守り  
自然と共存！

## ヨコハマタイヤリトレッド(株) 北海道事業所

ウトナイ湖湿地の自然観察路周辺の外来植物分布を調べて、外来種オオアワダチソウが多い地点で抜き取りを行い、その効果を確認しています。「外来種とは?」「なぜ除去する必要があるのか?」を勉強し、日本野鳥の会が日本で最初に開設した「サンクチュアリ」の保全活動を通じてウトナイ湖の自然と共存を目指しています。2017年から始めた外来植物の抜き取り活動は、ステークホルダーである関連会社も参加する大きな活動になりました。2024年からは日本野鳥の会の依頼で、「小鳥の餌場の修復」「観察路の草刈」などウトナイ湖周辺の美化活動も行っていきます。

<https://www.y-yokohama.com/group/ytr/>

E-mail/[hiroko.fukuda@y-yokohama.com](mailto:hiroko.fukuda@y-yokohama.com)

TEL 0144-58-2411



砂浜・干潟

【宮城県】



生きもの調査や  
海水魚・淡水魚の飼育に取り組む  
水産高校の部活動

### 宮城県水産高等学校増殖研究部

水産高校の部活動です。海辺での生きもの調査や採集を行ったり、海水魚・淡水魚の飼育に取り組んだりしています。調査方法は、地引き網や手網で行い、記録をとり、各月や経年での変化を分析して、活動に活かしていきたいと考えています。一般的にも言われているように、南方系の魚が入るようになってきて、興味深い調査結果が出ています。各活動を通じて、身近な環境について知識を深め、それぞれの生き方に活かしていくことが目的です。

<https://miyagisuisan.myswan.ed.jp/>

E-mail/ebina-i428@td.myswan.ed.jp TEL 0225-24-0404

湿原

【栃木県】



渡良瀬遊水地の豊かな自然を  
ボランティアガイドがご案内します。

### 小山市渡良瀬遊水地 エコツーリズムガイド協会

ラムサール条約登録湿地の、多様性のある豊かな自然や地域の歴史・文化をガイドします。学校関連の社会科学習や一般のみなさんへのガイド活動に加え、渡良瀬遊水地に自生するヨシを使ったワークショップやヨシ灯りの実施や、湿地の保全活動に参加しています。2020年から5年連続してコウノトリが巣立った豊かな自然を、広く一般のみなさんに体験していただくために、春夏秋冬の年4回、「第2調節池 自然観察会」を開催しています。

<https://sites.google.com/view/oyamawatarase>

E-mail/oyama.watarase.guide@gmail.com TEL 0285-22-9354

湿原・湖沼

【栃木県】



渡良瀬川流域から自然と共生する  
未来社会を目指しています。

### 特定非営利活動法人 わたらせ未来基金

渡良瀬遊水地と渡良瀬川流域の自然環境を再生させるため、市民をはじめ、他のNGO、行政、その他のセクターと協力し、上流の森林再生と下流の湿地再生の取り組みを進めています。活動を始めたのは2001年で、2040年にはコウノトリが、渡良瀬遊水地に定着することを目標として、シンボルマークもコウノトリとしました。市民対象の活動として、自然観察会、ヨシ刈り体験、ヨシ焼き前のクリーン作戦、ヨシ腐茎土作り、ヨシ腐茎土を使った足尾の緑化、などを行っています。

<https://www.watarase-mirai.org>

E-mail/info@watarase-mirai.org TEL 0280-51-4593

湿原・河川・河口・汽水域・浅海域

【千葉県】



三番瀬の生物多様性を観察し  
その生態系を守る

### フィールドミュージアム・三番瀬の会

干潟フィールドで、実際に見たり、聞いたり、触れたり、匂いを感じたり、味わったり五官を通し、生きものの生活を観察しています(千葉県中央博物館の専門家の指導を受け、正しい、広い知識を得ることもできます)。たくさん生きものがそれぞれ精いっぱい生きていく姿(生物多様性の豊かさ)を見て、感じてもらい、これらの生きものを未来に引き継ぎ、守るための生態系の課題解決をいっしょに考えてもらいたいと思っています。

E-mail/kiyoshi092712345@gmail.com

TEL 090-4532-4137

水田・里山

【千葉県】



お米作り体験を通して  
自然と親しみ、農業や  
地域の環境について考えます。

## 土の学校

「土の学校」は農業、農村文化、環境教育などに関心のある人たちが集まって有志で実施している「お米づくり体験学習」です。お米づくり体験を通して自然と親しみ、共存することを考えるきっかけづくりと仲間づくりを目的として「土の学校」を企画・運営しています。土に触れたり、生産現場を見たり、農家の方たちと交流することが自然と私たちのつながりを考える上で大切なことだと実感しています。春から秋まで5回農業体験と交流をします。毎回ご飯とお味噌汁を作り、みんなでいただきます。

<https://www.facebook.com/tsuchinogakko>  
E-mail/hyugge@hotmail.com TEL 070-5579-1321

水田・河川・ため池・河口・汽水域

【静岡県】



誰でも気軽に参加できる  
市民部活!

## 市民部活 浜松・魚部

浜松・魚部は、日本でも珍しい汽水湖・佐鳴湖へ流入する河川をメインフィールドとして毎年4月から生き物観察会をしています。『自然に興味はあるけど、どう接すればいいのかわからない』という人たちに、遊びを通じて身近な自然や生きものに出会い、楽しさやおもしろさ不思議さを感じて、いろんなことに気づき自然に対する感性を磨きます。ガサガサ遊びを通じて自然に対する感性を磨きます。

[https://www.instagram.com/hamamatsu.gyobu?igsh=MTRzYzUOdWInd3lzNQ%3D%3D&utm\\_source=qr](https://www.instagram.com/hamamatsu.gyobu?igsh=MTRzYzUOdWInd3lzNQ%3D%3D&utm_source=qr)  
E-mail/shizuoka.gyobu@gmail.com  
TEL 090-5118-0926

水田・河川・里山・ピオトープ

【静岡県】



自然の恵みを生かし、楽しむ、  
おちばの里づくり

## 湖西フロンティア倶楽部

「自然の恵みを生かし、楽しむ、おちばの里づくり」を目指しながら、1992(平成4)年4月に発足した会社員、自営業、公務員など、さまざまな立場の人が集まった市民団体です。発足から地域福祉の推進、地域の自然保護や文化の継承、青少年リーダーの育成等の活動に取り組みながら、各種団体と連携し、ふれあいを楽しむ地域づくりに取り組んでいます。

<https://www.kosai.org/>  
E-mail/kosaifront@yahoo.co.jp

河川・河口・汽水域

【岐阜県】



長良川河口堰の開門調査を  
実現しよう!

## よみがえれ長良川実行委員会

よみがえれ長良川実行委員会は、長良川河口堰開門調査を求める市民団体です。河口堰は1955年7月6日に運用が開始され、今年30年となります。長良川をめぐる自然環境も社会環境も大きく変わりました。私たちは、現場の環境変化を観察するとともに「長良川をよみがえらす」市民論議を広げたいと考え、活動を進めています。

<http://dousui.org/>  
E-mail/mutohitoshi@yahoo.co.jp TEL 090-1284-1298



夢と希望と冒険  
そして自然を守る

## 劇団シンデレラ

「夢と希望と冒険、そして自然を守る」をテーマに、これまで数多くの「自然環境の保全」「森林の保全」「野生生物との共存」をテーマとしたミュージカルを、愛知県尾張地方を中心に北は北海道から南は沖縄、さらにはタイ、インドなどアジア各地で上演してきました。「自然保護」を声高に訴えるのではなく、ときに笑いや涙も交え、子ども～大人まで、さまざまな人たちに楽しんでもらいながら伝えることを大きな目的として活動しています。

<https://cinderella.studio.site/>

E-mail/flawless\_tomoko@yahoo.co.jp

TEL 090-8499-0029



藤前干潟とその流域、生物多様性を  
保全する活動を展開しています。

## 特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

名古屋市のごみ処分場建設計画から藤前干潟を守るために、1987年に活動を開始しました。その後、1999年の計画中止および保全確定を経て、2002年のラムサール条約登録を期に、2003年にNPO法人格を取得しました。私たちNPO法人藤前干潟を守る会は、藤前干潟の保全の歴史とそこに見える、環境保全のメッセージを多くの人に伝え、藤前干潟とその流域、生物多様性を保全する活動を展開しています。今年も「干潟の学校」（観察会）などさまざまなイベントを予定しておりますので、ぜひ、遊びにいらしてください。

<https://fujimae.org/>

E-mail/info@fujimae.org TEL 080-5157-2002



魚が棲める水環境を次世代に・・・

## 魚と子どものネットワーク

魚と子どものネットワークは魚が棲める水環境を保全し、それを次世代に伝えていくことを目的として設立されました。水辺に魚が泳ぎ、子どもたちがイキイキと暮らせる環境は、自然環境としても、社会環境としても素晴らしいものではないでしょうか。そんな光景をいつまでも見続けられるようにしたいという想いが、私たちの活動の原動力となっています。さまざまなネットワークを通して私たちの活動を知ってもらい、同じような考えをもっている仲間をみつけないかと思っています。

<https://www.watarase-mirai.org>

E-mail/info@watarase-mirai.org TEL 0280-51-4593



親子で参加・体験できる  
ゆるい観察会です。

## 和歌山大学教育学部

和歌浦干潟で春と秋に、有田川干潟で春に観察会を行っています。就学前児童とその保護者といった親子連れでの参加が多いですが、お一人様も含めいろいろです。

E-mail/tkoga@wakayama-u.ac.jp

TEL 090-4499-3157

湿原・水田・里山・室内

【福井県】



中池見湿地の豊かな自然を、  
この大切な育みの場を、次の世代へ

## NPO中池見ねっと

NPO法人中池見ねっとは、福井県敦賀市にあるラムサール条約湿地・中池見湿地の保全および湿地の持続可能な利用を図り、自然と人が共生する豊かな社会の実現に寄与することを目的として活動しています。水田生態系保全のためのミニ田んぼサポーター事業や外来生物の防除活動に加え、湿地内にある茅葺き古民家を利用した「なかいけみかフェ」などを通して、生き物豊かな湿地の魅力を伝えています。

<https://nakaikeminet.raindrop.jp/>

E-mail/info@nakaikeminet.raindrop.jp TEL 090-8269-9801

浅海域

【京都府】



ゲノム編集とらぶぐを  
ふるさと納税返礼品にしないで!

## 宮津∞麦のね宙ふねっとワーク

京都府宮津市、天橋立のある風光明媚な海の街に、しらぬまにゲノム編集魚の陸上養殖施設が！さらにはふるさと納税返礼品にゲノム編集のトラフグやマダイが登場し、取り下げを求めて市民グループを結成。署名や請願、集会などを展開してきました。ゲノム編集魚が海洋流出する危険性や、魚を苦しめるその技術、人体への安全性について十分な議論がなされないままに、表示もされることなく流通が始まっています。食料危機を救うと言われている生物がどんなものなのか、関心を寄せてください。

<https://www.facebook.com/mugifune>

E-mail/yoccola.i@gmail.com TEL 090-4303-1730

湿原・河川・ため池

【大阪府】



在来の淡水性カメ類の保全と  
そのための環境づくり

## 和亀保護の会

在来の淡水性カメ類の保護を目的に2004年に設立。大阪府茨木市・摂津市を流れる大正川と兵庫県東播磨地域のため池、福井県敦賀市の中池見湿地を中心に活動している。おもな活動は一年を通しての捕獲調査、外来植物の防除、清掃活動、イベントなどでの啓発活動。また活動で得られたデータをまとめて、研究会や学会で発表している。地元、活動団体、行政などと連携・協働して、楽しく息の長い活動ができるよう心掛けている。活動参加を希望される方はHPより連絡されたい。

<http://www.wagamehogonokai.sakura.ne.jp/>

E-mail/kamenanosa529@yahoo.co.jp TEL 080-6159-8414

河口・汽水域・砂浜・干潟・浅海域・埋め立て地

【岡山県】



たましまの未来に  
渡り鳥の集う干潟を残したい!!

## たましま 干潟と鳥の会

「たましま 干潟と鳥の会」は、おもに玉島地域の干潟を楽しむ！愛する！人たちの集まりです。どなたでも参加いただけます。今年も干潟の生きもの観察会や、講師を招いたシンポジウムなどを開催予定です！詳しくはホームページをチェックしてください。

<https://tamashimahigata.wixsite.com/website>

E-mail/tamashima.higata@gmail.com



HP



LINE

湖沼・水田・河川・ため池・河口・汽水域・砂浜・干潟・浅海域・室内

【徳島県】



徳島の魚をとって徳島を知る!

## 阿波魚類研究会

徳島県は吉野川や勝浦川、那賀川、海部川などたくさんの川が流れていて、瀬戸内海や紀伊水道、太平洋といった多様な海域に面しています。これらの川や海の中には、多種多様な魚類が生息しています。阿波魚類研究会は、徳島県に生息する魚類やそれらを取り巻く自然環境、地域文化の調査研究をととして、徳島県の自然科学の活性化や自然環境保全を目指す団体です。県内の研究者や学校の先生など、いろいろな立場の人が集まって楽しみながら活動をしています。

E-mail/[awagyoken@gmail.com](mailto:awagyoken@gmail.com)

砂浜・干潟

【徳島県】



磯の生き物観察会

## NPOカイフネイチャーネットワーク

磯に打ち上げられる海藻が少なくなり、海藻にくっついてた貝殻が見当たらないので、海岸で楽しんでいる人の姿がありません。

観察会を行うことによって、カニや魚を水槽に入れ見て楽しんだり、磯に棲んでいる生き物で海水が綺麗かどうかを調べることによって、参加者に興味を持ってもらっています。

E-mail/[hitocyan@mc.pikara.ne.jp](mailto:hitocyan@mc.pikara.ne.jp) TEL 090-5499-8391

水田・河川・里山・河口・汽水域・砂浜・干潟・室内

【徳島県】



素晴らしい自然の中で  
「学び・遊び・食べて」  
生物多様性リーダーになろう!

## とくしま生物多様性リーダーチーム

勝浦川流域フィールド講座は2025年で12年目を迎えました。これまでに徳島県から生物多様性リーダーに認定された方とPDCAを回しながら活動を続けています。活動中、思いもよらない場所で絶滅危惧種と出会うこともあり、徳島の自然の豊かさに感動したり、守っていかねばいけない自然がすぐ近くにあることにも感慨を深くしています。一昨年は10周年記念活動フォーラムの開催、行政と連携し生物多様性を守るために外来種駆除や企業と協力して子どもたちへの環境学習を実施したりと、少しずつ活動の輪が広がっています。

E-mail/[sachiyoww@hotmail.co.jp](mailto:sachiyoww@hotmail.co.jp) TEL 090-2828-6181

河口・汽水域・砂浜・干潟

【徳島県】



空・川・海・ひとが出会う  
吉野川河口を未来につなぐ

## とくしま自然観察の会

誰でも気軽に参加できる観察会を通じて、身近な自然を楽しみながら自然について考えるためのネットワークづくりをしようと1994年に発足。主なフィールドは、国内最大級の汽水域と河口干潟を有する吉野川。シオマネキの生息調査、干潟の清掃活動、エコツアー、干潟の動画制作、「吉野川河口みらい講座」のインターネット発信など吉野川干潟のファンをふやす活動をしています。そして、四国初のラムサール条約湿地登録をめざしています。

<https://www.shiomaneki.net/>E-mail/[kansatsunokai@gmail.com](mailto:kansatsunokai@gmail.com)

TEL 088-623-6783



▶吉野川干潟のいきもの動画 QR コードからご覧ください。

湿原・水田・河川・ため池・ビオトープ

【徳島県】



コウノトリが舞う笑顔輝く未来に

## 認定NPO とくしまコウノトリ基金

コウノトリをはじめとする鳥類の保護活動と、その活動を通じて地域を元気にする取り組みを進めています。湿地に関しては、水生動物が豊富な水環境を増やすため、耕作放棄地を再生しビオトープとして整備しています。

<https://www.t-stork.jp/>

E-mail/info@t-stork.jp TEL 090-2825-6721

河川

【徳島県】



名水百選の江川の水源を守り、昔ながらの清流を取り戻す。

## NPO法人江川エコフレンド

江川エコフレンドは、江川と吉野川およびその周辺の環境美化・保全活動を実施することにより、名水百選の江川の水源を守り、昔ながらの清流を取り戻すことを目的として、地域住民と中学生たちが一緒になって、環境の保全を図る活動、まちづくりの推進を図る活動、青少年の健全育成を図る活動を行っています。定例作業として、2000年8月から毎月1日早朝に江川湧水源周辺と下流域の清掃・除草活動や環境保全活動を行っています。

<http://egawa-eco.com/>

E-mail/seo\_noriko@seoatom.com 0883-24-2762

河川・河口・汽水域・砂浜・干潟

【徳島県】



川遊びを通して、『川とひとつをつなぐ』きっかけ作りができればと考えます。

## NPO川塾

水辺の教室では、国内屈指の自然環境を持つ吉野川で、一年を通して遊び、学び、感じることで、吉野川の楽しさ、生態系の豊かさ、四季折々の変化を肌で感じます。また、地元の川漁師さんや吉野川で育った地元の方々を講師に招き、「川と共に生きる知恵や技術」を実践し、体感します。それらを通じ、吉野川と自分たちの暮らしとの関わりについて、感じ、考えることで、「吉野川は自分達の川」という意識を持ってもらいたいと思っています。

<https://kawajyuku.com/>

E-mail/info@kawajyuku.com TEL 080-6385-4200

水田・里山・室内

【徳島県】



食と農の問題に取り組んでいます。多様性に富んだ種子を守り、時代に引き継ぐことを大切にしています。

## 食と農を守る会徳島

私たちは種子法廃止、種苗法改正で農家の自家増殖禁止や多様性に富んだ種子が失われていくことを懸念し、学習会、映画、講演会等を開催してきました。徳島県で種子条例ができ、食の安心・安全条例に遺伝子組み換え作物等への規制が実現しました。しかし、新たにゲノム編集作物や重イオンビーム育種米が登場しています。勝浦川の源流、ブナの原生林がある高丸山、森の再生に取り組む千年の森など魅力ある上勝町で、山と里山、農地を通り、川を通じて海へと注ぐ水の循環を大切にしていきたい。

<https://www.facebook.com/groups/326448412386355>

E-mail/hiroko19561206magnolia@yahoo.ne.jp

TEL 070-1946-3915



王越とんぼランドにはさまざまなトンボをはじめ、貴重な動植物が残っています。

## 王越とんぼプロジェクト実行委員会

「王越とんぼランド」にはさまざまなトンボをはじめ、貴重な動植物が残っています。解説だけの観察会ではなく、五感で感じながら子どもから大人まで一緒に自然を楽しむ「かんさつ会」を行い、地域の自然を守るには何が必要かを考えます。

<https://www.city.sakaide.lg.jp/soshiki/syougaiyakusyu/ougoshitonborando.html>



楽しむ、学ぶ、守る。  
都市の中の和白干潟。

## ウエットランドフォーラム

和白干潟は、160万都市の中に残された自然豊かな干潟です。広くはないけれどいろんな環境が揃っていて、干潟観察や環境学習に最適な場所です。ガタレンジャーの子どもたちと一緒に、市民参加による干潟の生きもの観察会やイベント、地域の環境学習サポートなどを通じて、和白干潟の環境保全への気づきや共感の輪を広げ、地域との協働の場づくりなど、和白地域での干潟保全の意識向上を目指しています。

<https://wetland-forum.jimdofree.com/>  
E-mail/cocontei-matsu@nifty.com TEL 080-5251-8677



生きた化石「カブトガニ」の  
棲む海を未来に!!

## 日本カブトガニを守る会福岡支部

福岡県下のカブトガニの生息地である北九州市、福岡市、糸島市の3地区の干潟で、カブトガニの保護やカブトガニの棲む海の保全に取り組んでいる団体です。産卵調査や幼体調査を主とした調査活動、漂着ゴミの片付けや産卵場の整備、漂着1齢幼生の救出保護などの保全・保護活動、観察会の開催やイベントへの参加、出前講座等の啓発活動を行いながら、カブトガニの棲む海を未来に残せるように地元住民や各種団体と協力しながら活動しています。特に国内でも有数の産卵・生息地である北九州市曾根干潟での活動に重点を置いています。調査活動の担い手を求めています。

E-mail/shun5-taka8c@jcom.home.ne.jp



「源流から干潟まで地域の  
豊かな自然を次世代へ!」

## 東朽網校区まちづくり協議会「水と緑の美化プロジェクト」委員会

まちづくりの一環として行う自然環境を守る活動で、東朽網校区の宝である源流から干潟までの豊かな自然を活かし、環境の変遷や地域の未来を住民全体で考えていくうえで、大人から子どもまでいっしょに学ぶ体験型学習(水晶山清掃登山、昭和池清掃と植樹、朽網川河口海岸清掃、カブトガニ産卵観察会等)や草刈り、ゴミ拾いなど環境保全活動を実施しています。これらの活動を通して、山から海へ繋がる水環境が守られ、次世代へ繋ぐことの大切さを共感できる環境意識の高い人づくりを行っていくことを目的としています。

E-mail/hk-sf@ktqc03.net (東朽網市民センター)  
TEL 093-475-8861 (東朽網市民センター)



ラムサール条約登録湿地「肥前鹿島干潟」を中心に「保全・再生」「ワイズユース(賢明な利用)」「交流・学習」に取り組んでいます。

## 鹿島市役所建設環境部 ラムサール条約推進室

鹿島市役所ラムサール条約推進室は2015年に肥前鹿島干潟がラムサール条約に登録されたのを契機に設置されました。有明海の干潟やそこに暮らす生き物たちを多くの人に知ってもらいためにさまざまな活動をしています。とくに子供たちへの環境教育に力を入れており、小学校の授業として干潟に入って泥まみれになる「干潟体験」、肥前鹿島干潟にやってくる渡り鳥を観察する「野鳥観察」の授業を、市内全ての小学校で実施しています。また、環境や生き物をテーマにした毎月発行の漫画のお便り「らむさーだより」を市内の4～6年生全員にお届けしています。

<https://hizenkashimahigata.com/>

E-mail/ramsar@city.saga-kashima.lg.jp TEL 0954-63-3416



国の公共事業という大きな力と戦っています。私たちのあとに道はできる。

## 「干潟を守る日2025 in 諫早」実行委員会

1997年4月14日の諫早湾閉め切り以後、毎年市民による集会を持ち、干潟の生き物たちや有明海の海に棲む魚介類と共に生きる意味を確認してきた。これからも、その姿勢は変わらない。私たちがこの地球に生きる限り、共に生きる姿勢を堅持しなければ、その未来に展望を見出すことはできない。

E-mail/mitachi-yama@iga.bbq.jp

TEL 0957-25-2328



球磨川河口干潟の素晴らしさを次世代へ

## 八代野鳥愛好会

本会は鳥好きの人が集まって1988(昭和63)年4月に創立され、鳥と親しみながら野鳥たちの暮らしが守られ人と野鳥が上手に共生することを目指す活動を続けて36年たちました。2011(平成23)年からラムサール・ネットワーク日本の湿地のグリーンウェブ事業に協賛し、春の渡り期(4月)と秋の渡り期(8月)には「球磨川河口がんばれ! シギ・チドリ類観察会」を開いてシギ・チドリ類の渡りを応援するイベントを実施しています。今年も応援します。

<http://yatsushiro-birdclub.com>

E-mail/nnjy615@yahoo.co.jp TEL 090-3328-4970



生中津干潟(舞手川河口湿地)が自然共生サイトに認定されました!

## 特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会

瀬戸内海最大の中津干潟の保全活動を中心に、大分県中津市とその周辺の水辺環境で楽しく活動をしている団体です。秋から春にかけては小さな渡り鳥たちがやってきたり、夏にはカプトガニやアオギスなどの海の生きものたちが元気に泳ぎ回っていたりします。2025年3月に環境省の「自然共生サイト」に、中津干潟の一部が認定されました。小さな干潟の博物館「ひがたらば」にも遊びに来てね。

<http://mizubeniasobukai.org/>

E-mail/info@mizubeniasobukai.org TEL 0979-77-4396



希少植物の芽吹きを願う

## 川南湿原を守る会

川南湿原は、川南町の中央部に広がる湿原です。標高50m前後、面積は約33,000㎡で、新橋溜池から東に植物群落が広がります。1974(昭和49)年に国指定天然記念物に指定され、植物の種類は78科298分類で、うち約170種類が希少植物です。希少植物保護のために1995(平成7)年度から調査を開始し、2010(平成22)年度に整備が完了。湿原が一般公開されてからは、ボランティア団体「川南湿原を守る会」が園内の監視、案内、環境整備、植物の保護活動などに取り組んでいます。こうした地道な保全活動が実を結び、「未来に残したい草原の里100選」の1つに選ばれました。

<https://www.town.kawaminami.miyazaki.jp/soshiki/12/1507.html>  
E-mail/sports@town.kawaminami.miyazaki.jp  
TEL 0983-27-8020



泡瀬干潟をラムサール条約湿地登録をさせるために活動している

## 泡瀬干潟を守る連絡会

泡瀬干潟の埋め立てに反対する活動をしてきました。埋め立て予定を半分にはさせることはできました。半分は埋め立てが進行していますが、まだ完成していません。私たちは残る干潟をラムサール条約湿地に登録させる運動をしていますが、沖縄市長などが登録に反対しているために、沖縄県は努力していますができません。登録できる運動をしています。

E-mail/save\_awasehigata@yahoo.co.jp  
TEL 090-5476-6628



南部に残った貴重な自然海岸、那覇空港から20分で行けます。

## 浦添西海岸の未来を考える会

沖縄本島南部に残された貴重な、沖縄の原風景ともいえるサンゴのリーフ(沖縄でイノーといいます)が広がる浅海域です。子どもたちが大好きな、カクレクマノミにも出会える海が、那覇空港から車で20分のところに残っているのです。普天間基地の移設と同じように、那覇米軍港を返還するための代替地に選ばれ、海のど真ん中にサンゴの海を破壊し埋め立て、米軍軍港をつくる計画です。この海をそのまま子どもたちに手渡していきたい。願いを込めて行動しています。

X @UrasoeMirai インスタグラム [urasoemirai](https://www.instagram.com/urasoemirai)  
E-mail/biwamarubeebee@gmail.com  
TEL 080-8178-1362



## ラムサール・ネットワーク日本について

ラムサール・ネットワーク日本(略称:ラムネットJ)は、日本各地の湿地に関わるグループや個人から成り立っている湿地保全のための環境NGOです。2009年4月に設立し、同年9月にNPO法人として認可されました。

ラムネットJは、湿地保全のための国際条約であるラムサール条約の考え方・方法に基づき、すべての湿地の保全・再生、賢明な利用を実現するために、この「湿地のグリーンウェイブ」や「田んぼの生物・文化多様性2030年プロジェクト」といった普及啓発活動をはじめ、調査研究、政策提言などさまざまな取り組みを行っています。また、国際的なNGOである世界湿地ネットワークとともに、韓国など各国の湿地保全団体と連携した活動も行っていきます。

## 会員になって活動の支援をお願いします！

ラムネットJの活動は、会員の皆さまからの会費やカンパ、助成金などでまかっています。ぜひ、ラムネットJのサポーター(一般賛助会員)になって会の活動を支援してください。もっと積極的に湿地保全にかかわりたい方は、会の運営や活動を担う一般正会員としての入会をお待ちしています。また、団体としての入会も可能です。

会員になると専用のメーリングリストに参加できます。また、年数回発行の「ラムネットJニュースレター」をお送りします。

- 入会方法：郵便振替用紙(払込取扱票)の通信欄に、ご希望の会員種別、お名前、住所、電話番号、Eメールアドレスをご記入の上、年会費をお振り込みください。
- 年会費：一般賛助会員 2000 円、一般正会員 5000 円
- 送金先：ゆうちょ銀行 振替口座 00140-0-765702 ラムサール・ネットワーク日本
- カンパも上記の口座までお願いします。

▶詳しくはQRコードから入会案内  
(<https://ramnet-j.org/join>)へ  
アクセスしてください。



〈問い合わせ先〉ラムサール・ネットワーク日本 湿地のグリーンウェイブ係  
・ホームページ:<https://ramnet-j.org/wgw>  
・フェイスブック:<https://www.facebook.com/groups/2358414017722340/>  
・問い合わせ先:E-mail:[gw@ramnet-j.org](mailto:gw@ramnet-j.org)

主催/ラムサール・ネットワーク日本  
〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3F TEL/FAX 03-3834-6566  
Eメール [info@ramnet-j.org](mailto:info@ramnet-j.org) ウェブサイト <https://ramnet-j.org/>

後援/WWFジャパン、日本野鳥の会、日本自然保護協会、IUCN日本委員会、  
日本国際湿地保全連合